

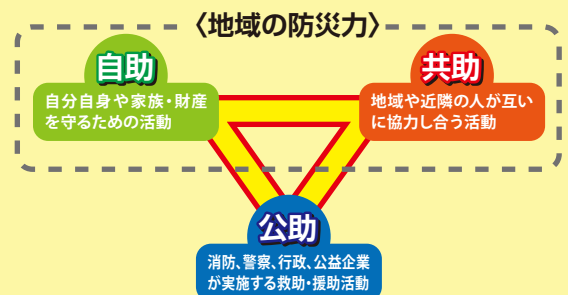
自主防災組織

自主防災組織

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。
ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動（公助）は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取組を始めてみませんか？

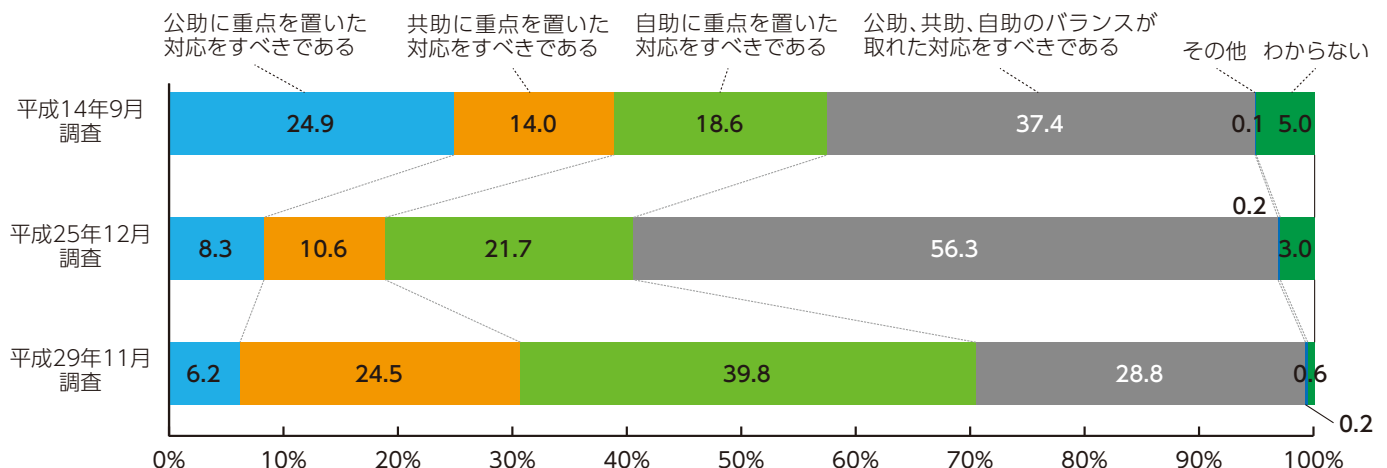
災害に強い地域をつくりませんか？



○各班の日頃（平常時）と緊急時（災害発生時）の活動内容は概ね次のような役割になります。

	情報班	消火班	避難誘導班	救出救護班	給食・給水班
平常時	○住民に対しての連絡体制、手段の検討 ○情報収集・伝達訓練の実施 ○防災意識の啓発、高揚に関する広報 ○公的防災機関との連携確保	○初期消火訓練の実施 ○消火用水の確保、確認 ○出火防止の啓発	○事前に避難路、避難場所を把握 ○避難誘導訓練の実施 ○避難路の安全点検 ※危険箇所（かけ、ブロック塀）などの確認等 ○避難行動要支援者の把握	○応急手当、衛生知識の普及 ○救命講習への参加 ○応急医薬品、救助資機材の確保、点検 ○技能、ノウハウを持った住民の把握 ○救助用資機材の点検・確保	○食料、飲料水の個人備蓄についての普及啓発 ○炊き出し訓練の実施 ○炊き出し用資機材の確保、点検
緊急時	○災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達 ○地域内の被害情報を収集し、本部へ報告 ○混乱回避、出火防止等の広報	○初期消火活動 ※消防署、消防団の到着までの延焼拡大を防ぐのが基本。無理はしない。 ○情報班と連携しての出火防止等の広報	○情報班と連携しての避難の呼びかけ ○安全な経路を選択しての避難誘導 ○避難行動要支援者の避難支援 ○避難地での安否確認 ○安否確認による救出救護班への情報伝達	○避難誘導班と連携しての速やかな救出 ※救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意する。 ○負傷者の搬送、応急手当の救護 ○避難所・救護所での救護活動への協力	○食料や水、救援物資等の受入、配布 ○必要に応じて炊き出し

自助・共助・公助の対策に関する意識の変化



出典：令和2年版 防災白書 | 附属資料57 自助、共助、公助の対策に関する意識

なぜ、「自主防災組織」が必要なの？

○大規模な災害が発生した時、地域の皆さんが協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで被害の軽減を図ることができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。より効率よくさまざまな活動をするためにも事前の準備（＝体制づくり）が重要です。